

2021年度第2四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

日時：2021年11月11日（木）16時00分～17時00分

当社出席者：代表取締役社長 佐藤敏彦、取締役 古川敏之、取締役 大治良高

主な質疑応答：

【全体】

Q) 設備投資額の見通しを引き下げた背景は。

A) 従来予想170億円から今回10億円を引き下げ、160億円とした。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う活動制限の影響により、一部で投資が今期中に完了しないものが出る見込み。

【時計事業】

Q) どの地域が特に好調だったのか。特に営業利益の上振れが大きかった背景は。

A) 完成品は北米市場の上振れが最も大きく寄与した。欧州市場もワクチン接種の進展状況により国ごとに濃淡があったが、堅調に推移した。また、ムーブメント販売も機械式、高付加価値ムーブメントが順調に推移した。

営業利益は、完成品の売り上げ増加に加え、ムーブメントの利益改善の効果が大きかった。経費等の進捗が予算通りに推移した一方で、リベンジ消費のような強い需要が売上高を引き上げた状況。

Q) 中国市場ではこれまでの経済成長状況に変化が生じているようだが、今後、戦略の変更等は考えているか。

A) 中国市場の業績について、2021年度第1四半期までは順調に推移していたが、2021年度第2四半期に入り、河南省での洪水、電力不足、IT業界への規制等さまざまな要因から景況感が悪化している。中国はEC市場が伸びてきた中で、中小プラットフォームも成長してきた。EC販売と実店舗販売とのバランスを取りながら、引き続き拡大を目指していく。現時点で戦略の大きな変更は考えていない。

Q) 下期は、意欲的に宣伝投資を行う考えはあるか。

A) 広告宣伝費の想定は変えていないが、クリスマス商戦に向け北米市場を中心にデジタル宣伝投資を強化していく。国内、アジアは回復が弱含みであり、状況を注視しながら機動的に対応していく。

【工作機械事業】

Q) 部材調達にひっ迫感が出ているようだが、足元の状況はどうか。

A) 2021年度第1四半期よりも2021年度第2四半期の方が、欠品する部材等が増えている状況。NC装置、電装部品、制御盤のほかスイッチなど細かい部品も欠品しており生産効率が下がってきている。

Q) 地域別構成比の状況はどのようになっているか。

A) 受注については、欧州が好調を継続しているほか、国内も回復に向かっており収益性の高い地域の構成比が高まっている。下期の売り上げ構成比は、欧州が若干下がり、国内が上がってくる見通し。受注は高水準にあるものの、リードタイムの長期化と、部材価格や物流費などのコスト増加もあり、下期の業績予想は据え置いている。

以 上